

【恵那市】

1人1台端末の利活用に係る計画

1. 1人1台端末を始めとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

学習を調整しながら主体的に深く学ぶ姿を目指します。具体的には以下の4つの姿です。

- ① 学習の計画を立て、見通しをもって学習する姿
- ② 自ら必要な情報を入手したり、自分に適した学びを選択して、学習を進める姿
- ③ コミュニケーションを図り、新たな気づきをしたり考えを補完し合ったりして学習を深める姿
- ④ 学習を振り返り、成果や課題を自覚し、次に生かすことができる姿

2. GIGA第1期の総括

恵那市では、GIGAスクール構想が全国的に広がる以前から小中学校におけるICTの活用に取り組んでいました。2020年以降もいち早く一人一台端末を導入し、積極的な活用をすすめてきました。そのような中、「恵那市立小中学校ICT活用推進方針」を策定し、ICTを活用することが目的ではなく、目指す子供の姿を具現するためにICTを効果的に活用していくことを共通理解しました。また、ICTを効果的に活用できるように市独自のリソースの準備も進めています。

その結果、一人一台端末を文房具のように活用することはもちろん、個別最適な学びを意識した授業が増えており、その成果は全国学力学習状況調査児童生徒質問紙や学校質問紙のアンケートの結果に表れています。今後は、ICTをより効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びとの一体的な充実を目指します。

3. 1人1台端末の利活用方策

(1) 1人1台端末の積極的活用

恵那市立小中学校ICT活用方針を基に、1人1台端末を活用する目的を市内で共有し、目指す子供の姿を具現するためのICTの活用を推進していきます。さらに、市内のICTを効果的に活用した実践等を研究所だよりで紹介することで、1人1台端末の効果的な活用を推進していきます。

さらに、情報モラル・情報セキュリティに関わる研修を実施したり、学校で活用することができる資料を整備したりすることで、児童生徒自身が、1人1台端末のよりよい活用を考えて取り組めるようにしていきます。また、ICT支援員の配置による支援体制の充実を図ります。

（２）個別最適な学びと協働的な学びの充実について

授業参考資料を作成し、個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実を目指した授業についての理解を深められるようにします。また、市内独自のリソースの準備を進めることで、児童生徒が自ら選択し、学習に取り組むことができる環境を整えていきます。さらに、クラウドを効果的に利用することで、仲間の考えを参照しながら学習に取り組めるようにしていきます。また、学習ドリルの活用や、オンライン交流等、一人一人の特性や学習進度、必要とする支援に応じて、個に応じた学習活動の充実を図ります。

（３）学びの保障について

ICTを活用し、校内・校外支援センターと教室をオンラインでつなぐことや、児童生徒と教師のやり取りや、校内での情報共有等、不登校児童生徒への支援を行っていきます。

さらに、学習ドリルアプリや学習支援アプリを活用し、どこにいても学ぶことができる環境を整えていきます。